

# 新発田市内の守りたい植物とその自生地

石 沢 進

新発田市から望む残雪を頂いた二王子岳の雄姿は素晴らしい。二王子岳は、飯豊連峰でも最も日本海側に張り出した山体であって、海拔が低いのに遅くまで雪が残っている。そのような立地条件から、二王子岳の山頂部には、小さいながら草原があり、飯豊連峰の高所に生えるヒメウメバチソウ、ハクサンコザクラ、ミヤマホソコウガイゼキショウなど高山植物が生育し、二王子岳で分布の下限になっている。この観点から、二王子岳は飯豊連峰の中でも特異な、かつ貴重な植物の生育地であり、保護の必要がある。特に、雪のない夏季に多数の人が安易に登れるような施設は避け、人による踏みつけから守らなければならない。

二王子岳から流れ下る小河川の一つである石川川の上流には、猿ヶ城岩があり、その周辺には、県内でも比較的まとまって多種類のシダ植物が見られる。中でもオオフジダは分布の北限であって生育する個体数



オオフジダ 1980.10.23

も多く、貴重なところで県内のすぐれた自然の一つに数えられている。現在よりも奥に車道を伸ばすとその生育地を破壊し、絶滅する恐れがある。

新発田市の市外に整備の進んでいる五十公野公園内に、ムジナスゲという貴重な植物が生育している。美しくもなく、目立たないので、その価値を知っている人は少ないでしょう。県内では、かつて福島潟、新潟市の鳥屋野潟にも自生していたというが、今ではこの公園の樹潟周辺にひろがる湿地だけに生育し、他は消滅したようである。樹潟周辺の環境はこれ以上人手を加えないで、そっと自然のままにしておき、また、池の

上流部にあるアヤマ園から肥料分の多い水の流入を避けてほしいものである。樹潟には、ムジナスゲのほか、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ヤナギトラノオなど湿地に生育する多くの植物もあり、県内でも数少ない貴重な地域である。

新発田市には、この他多くの貴重な植物の自生地があり、レジャー施設や公園造成によって自然環境を改変する場合、あらかじめ詳細な実態調査を行い、貴重な箇所は残すよう慎重であってほしい。

広報「しばた」 特集「新発田の自然」(平成 3年 7月 1日 No. 750) に本文掲載。



ムジナスゲの群落 (1986年5月22日)



雌性、雄性の小穂をつけたムジナスゲ (1986年5月22日)